

編集後記

年1回の定期刊行を目標に掲げ、ここ技術室報告第3号を発行する運びとなりました。関係各位に対し厚くお礼申し上げます。

投稿者は定年退職予定の方を優先する方針で原稿を集めておりましたが、今回は6名と多く、例年と比較して〆きりを注意するだけで済むはずでしたが、やはり技官にとって原稿書きの苦勞は多かったようです。回りの環境は21世紀のCOEに研究所が入れるかどうかと厳しい情勢であります。我々技術室は、従来通りの技術のままで安住してはいけないことをひしひしと感じ取っております。各人の能力をさらに高める必要もありますが、今まで培った技術のコツや苦勞を文章にして残すことも大切なことだと思っています。現役時代では恥ずかしくて言えなかった経験も定年を迎える時期になると後輩に素直に語られておられるように感じました。成功からではなく失敗したからこそ多くを学んだとの意味だと思えます。勿論のこと教官のご指導並びにご助言を戴いて、苦勞して原稿を作り上げたことをくみ取って頂ければ幸甚です。また本誌が防災研究の支援になることを願うと共に、自らも一層努力し、これからも継続発行していけるよう努めていきたいと思えます。

技術室報告は、主に技術報告と技術室の年間活動を掲載しています。目を通していただき、本誌並びに我々の技術室に対し、ご助言ご感想等をお聞かせ頂ければと思っておりますので、どうか宜しくお願い致します。

2002年3月 平野 憲雄

《出版委員》

和田	博夫	観測班
吉田	義則	企画情報班
山田	勝	企画情報班
藤原	清司	機器運転班
平野	憲雄	室長
多河	英雄	企画情報班
杉政	和光	機器開発班
小泉	誠	前室長(12月末まで)

技術室報告

第3号

2002年3月 発行

発行者 京都大学防災研究所 技術室

〒611-0011 宇治市五ヶ庄

Tel 0774-38-4290 Fax 0774-38-4291